

第 110 回実践勉強会 実施レポート

日 時： 令和元年 9 月 10 日(火) 19 時 45 分

場 所： 大田文化の森 5 階 多目的室

共催 日東メディック

「緑内障 薬剤治療と手術」

東邦大学医療センター大森病院 眼科

内匠 秀尚 先生

参加者 97 名

質疑応答

Q1:薬局に対して服薬指導の面で要望などあったら教えて欲しい。

A1: 副作用について外来の時間で話せないことが多い。例えば、充血について。

点眼回数については、1 日多くても 2 回だが、3 回以上点眼している患者さんがいる。

副作用と点眼回数の 2 点を重点的に、薬局さんには服薬指導をお願いしたい。

Q2:白内障の手術をした方で眼圧が高い人に対して薬局として注意することはありますか。

A2 : 服薬指導やお薬に関して気にすることはない。散瞳薬や睡眠薬に関しても、日常通りに服用しても良い。白内障の方で眼圧が高い人がいた場合は、ドクター側でその原因を考えていきます。

Q3:緑内障の手術をされたことのある方は日常生活で注意することは何か

A3:感染症に気をつける必要があります。術後の 1 か月間は特に視野が狭くなっていて、日常生活の行動に制限がある。視野に関しても、3 か月から半年で戻ってくる。そういった状況を踏まえて、「目をぶつける」といった感染症に繋がることを防ぐことが重要です。

あとは、術後の患者さんには目薬をしっかり差して欲しい。

Q4:緑内障の患者さんが来局した際に、どのタイプの緑内障なのか患者さんに聞いても答え

られないことが多い。タイプ不明の緑内障患者さんに関しては、閉塞隅角緑内障の患者さんではないと判断して良いのか。

A4:白内障の手術した方（眼内レンズ装着）については、開放・閉塞隅角の条件が関係なくなるので気にしなくて良い。白内障手術している患者さんに対しては、開放隅角か閉塞隅角かは気にしなくて良い。実際に緑内障の患者さんで開放か閉塞かわからない場合には、ドクターに問い合わせをして確認するしかない。心配なことがあれば、問い合わせをして欲しい。

Q5:定期的に眼科に通院している人は、風邪薬など（抗コリン作用含有）を服用することがあっても服薬指導で特に注意しなくても良いのか。

A5:私の診ている患者さんにも閉塞隅角緑内障の方がいる。定期的に眼科に通院しているからと言って、特段注意しなくても良いとは思わない。

Q6:PGと β ブロッカーの用法による使い分けについて。

A6:起きているときより寝ているときの方が眼圧は高いので、起床時の眼圧が高いのはそれも関係している。 β ブロッカーは交感神経優位な朝点眼するのが良い。交感神経抑制に働く β ブロッカーを就寝前に点眼しても効果が少ない。

PGを夜間に点眼する際には、就寝時の眼圧を下げることを期待している。だから、就寝前に点眼して欲しい。